

# 平成29年度 自己評価及び学校関係者評価書

秋田公立美術大学附属高等学校

## 1 本年度の学校評価をふりかえって

展覧会への出品や県内外に作品発表の場を積極的につくるなど、様々な機会を生かしながら本校の特色を示し、沢山の方々に生徒一人一人の作品を間近で観てもらおうように取り組んだ。今年度の具体的な内容についてはまず初めに、学校行事の大幅な見直しを行い、学院祭を早期に開催したり、体育的行事を増やしたりするなど、3年生の進路決定への配慮や生徒会活動の活性化を図った。また、これまで1回であった体験入学を2回実施し、本校へ進学を希望する中学生への進学先決定に向けての一助とした。次に、秋田市教育委員会主催の各種教員研修会へ本校の全教員が参加するなど、小・中・高の校種を越えた教員同士の交流の機会を設け、情報の発信・交換を図ることができた。さらに、外国の留学生や修学旅行生徒との交流の機会を積極的に設け、異国の文化に触れることで、生徒の価値観を広げるきっかけをつくることができた。その他、これまで重点として取り組んでいた「専門性を高めるための支援」「基礎学力の定着」「基本的生活習慣の確立」「学習環境及び制作環境の整備」に加え、今年度は就職希望者も多くいたことから、生徒・保護者の多様な進路希望や情報収集への対応にも、教職員が一丸となって取り組み成果を上げることができた。

## 2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	教職員の学校運営参画意識を高める	学院祭7月実施と大きく変更した初年度であった。計画立案も手探りの中、職員的一致協力により実施できた。すべての行事における運営改善点を共有することで、職員の参画意識を高められた。	A	次年度は卒業制作・生徒作品展「明日のクリエイターたち」を県立美術館で開催する。生徒のために常に前進する、本校の誇りを具現化できるよう、今後も情報を収集しながら協力し、学校行事を成功させたい。	生徒の実情に合わせた学校行事等の見直しは、この後も適宜実施していく必要がある。「授業のユニバーサルデザイン」という明確な課題を前面に打ち立て、日々の授業実践に当たっている学校の取組は評価できる。次期学習指導要領への移行を見据えた指導計画・進路指導も重要になってくる。学校生活の中で出される様々な課題が、生徒達の大きな負担にならぬよう、普通教科の授業や実技教科の授業、部活動等バランスを考えた課題提示への配慮が必要であると感じる。
	授業改善の推進	「授業のユニバーサルデザイン」という課題のもとで授業改善に取り組んだ。また、各授業で生徒アンケートや実践記録を作成して振り返りを行い、個々の成果と課題を明確にした。	A	今後も「授業のユニバーサルデザイン」という課題を継続し、組織的に授業改善に取り組む。次年度はさらに、個々の教員の成果と課題を集約した上で、より焦点を絞った課題を設定する。	
	進路に関する情報提供	進学・就職に関する情報提供のため図書充実、進路指導だよりの工夫に取り組んだ。進路指導だよりに具体的な数値を載せることでわかりやすくし、必ず学年で読み合わせをし、情報を共有できるようにした。	B	社会や職業、就職(企業)に関する図書や資料を閲覧する機会が少ない。次年度は内容に興味をもてるように設置や掲示方法を工夫する。また、内容の一部を進路指導だよりに掲載し、読むきっかけをつくる。	
生徒指導	安全で、安心して過ごせる学校生活の保障(含む：いじめ防止の取組の充実)	生徒の登下校の安全確認とその確保、個々の生徒についての理解を深めるための職員間での細かな情報交換、職員研修会、いじめ調査と迅速な対応、カウンセリングの積極的な利用の呼びかけ、集会での指導、保護者との連携を通じて全生徒が元気に登校できる環境作りに努めた。今年度は校舎の利用の仕方について全校で考える機会もあった。	B	より確かな生徒の実態を掴むためには、生活面を中心とした把握だけではなく、学習面の取組状況についてもしっかりと把握する必要がある。さらに、保護者との連携を深めることが、生徒の内面に関する理解をより充実させることになり、生徒の気持ちにしっかり寄り添った確かな指導を可能にすると考え。	教員と養護職員、そしてスクールカウンセラー、さらに関係機関との連携による生徒支援は手厚く行われている。そのような中であっても十分な効果があがらないケースもあるが、生徒の心の支援については、保護者との連絡を密にし組織的に先を見据えた対応が大切になってくる。また、周囲の生徒達への配慮も大切になってくることから、これまで通りに各種のアンケート調査を実施し、学年・全校の実態をきめ細かく把握することで、全生徒が安心して学校生活を過ごせるようにしてもらいたい。
	生徒の健康保持増進	保健室における生徒の健康に関する記録をもとに、学級担任との情報共有を確実に行った。そのため担任は常に生徒の健康状態を把握しながら接することができた。必要に応じたスクールカウンセラーとの情報交換の取り組み方が課題である。	A	養護職員とスクールカウンセラーとの立場の違いから、それぞれの生徒へのアプローチの仕方は異なるが、できる範囲での緊密な情報交換により、効果的な健康指導につながると考える。よって、関係機関や専門的な職員との連携をより密にしていきたい。	
家庭・地域との連携等	制作を通じた地域との交流	栗田支援学校、日新小学校など地域の教育機関との連携や交流を深めた。また、外部施設での作品展、大森山動物園や新屋雪まつりでのボランティア制作など、本校の特色を発信できた。	A	地域における活動を通して、本校の存在感を高めることができた。次年度以降も積極的な地域活動を通じ、生徒たちが本校で獲得した専門性を発揮して、自己有用感を高められるようにしていきたい。	様々な取組は地域の中に溶け込むように行われており、近隣の学校や公共施設等との連携は年々充実してきている。生徒の表現力を高める上では大きな効果があり、更なる充実を期待したい。本校の特色を最大限発揮できる機会でもあることから、専門性を高めるとともに人間性を磨く取組になっていると感じる。
	大学との連携	例年継続している秋美大教員による連携授業や、大森山動物園の壁画制作の成果があり、秋美題材研究への参加やあらや雪祭りのボランティアなど生徒が大学の学生や先生方と関わる機会が増えた。	A	連携授業は内容を見直すことで、生徒にとってより有意義な行事になった。秋美大の専攻内容を知る機会としてだけでなく、生徒のキャリア教育につながる工夫を今後も相談しながら計画したい。	